



卓 話



「これからのシニアの旅」

(株)グローバルユースビューロー

代表取締役会長 古木 康太郎氏

一海外旅行、今と昔

そしてこれからの旅一



1964年、東京オリンピックを境に誰でも海外旅行を楽しむことができるようになって44年、海外渡航者数は若者を中心に伸びてきました。しかしこの10年、世の中は面白い現象が出てきました。若者とシニア世代の逆転現象です。

桜の季節に公園を陣取ってお花見をやっているのは若者たち。温泉旅行や指圧、マッサージの情報は若い女性を対象にした雑誌に満載されている。私が学生の頃は、新宿発、長野や信州への列車は山歩きの若者でいっぱいだった。ところが最近リュックを担いで国内外への山歩きをしているのは、ほとんどシニア世代である。そのせいか山で遭難するニュースを見ると悲しいことにほとんど60代である。南極や北極、チベットやアフリカなどの秘境に出かけるのも好奇心旺盛なシニアの方々が圧倒的に多い。世界遺産を訪れる旅など学ぶ旅もシニア世代が多い。

2004年、当社が南極へのツアーを実行した時、参加者80名の平均年齢は70歳。日本から40時間かけて南米の最南端の村、ウシュワイアへ飛び、そこからチャーターした探検船で荒れ狂うドレーク海峡を越えて南極へ向った。2日間の大荒れのドレーク海峡越えを終えるとそこには静かな南極の海と巨大な氷山群が現れる。昨晩までの船酔いもすっかり忘れ寒さも忘れて甲板でその光景を眺めているシニアの皆さんは、まるで子供に還ったように感動していた。

そしていよいよ南極大陸へ上陸。探検専門のクルーに守られながらゴムボートで南極へ上陸作戦開始。氷山の間を縫って勇ましく進む10隻のゴムボート。それぞれの感慨を胸に近づいて来る海岸線を見つめる。そして鈍い音と共に遂に大陸に上陸したその時、私の隣に居た一人の初老の参加者が「これで生涯の夢がかなった」と呟いた。

若者が忘れかけている冒険心や未知への憧れを、今まで会社や家族の為に一生懸命働いてきたシニア世代が満喫している。いや、青春を取り戻そうとしているようにも思える。

20才代の海外旅行が減少する中、昨年の海外渡航者数1730万人中、600万人は50歳以上で、この現象は年々加速する傾向にあります。30年前の海外旅行は、知らない国、街に行くという事が目的であった。そして時を経て旅行も進化しテーマのある旅に変わってきた。美術館や博物館そして世界遺産を訪ねる旅、音楽や料理などを楽しむ旅が主流になってきた。

しかし、これからは更に進んで冒険心、好奇心そしてロマンを満たす旅が元気なシニア・・・“アクティブ・シニア”が求める旅になっていくことと思います。

幼い頃から夢見た未知への憧れ、シニア世代になった今も衰えない好奇心。そんな生き生きとした方々に出会うとき、サムエル・ウルマンの詩「青春」を思い出します。

～～青春とは人生のある時期ではなく 心の持ち方をいう。(中略) 時には、20歳の青年よりも60歳の人に青春がある。年を重ねただけでは人は老いない。理想を失った時初めて老いる。(中略) 頭を高く上げ希望の波をとらえるかぎり、80歳であろうと人は青春の中にいる。～～